

# カナダ・オンタリオ州の Reading Curriculum の 構造の研究

— Strands に焦点をあてて —

青山之典

(2012年10月2日受理)

Research for the Structure of Reading Curriculum in Ontario, Canada  
— Focus “strand” —

Yukinori Aoyama

**Abstract:** This is a research for the structure of reading curriculum in Ontario, Canada. Especially, about The Ontario curriculum, Grades 1-8, Language. At first I examined a principle of the curriculum making. I knew that the language curriculum is based on the belief that literacy is critical to responsible and productive citizenship. And I think it is important that literacy is critical. Secondly I knew that the curriculum is designed to provide students with the knowledge and skills that they need to achieve this goal. This curriculum organizes the knowledge and skills that students need to become literate in four strands, or broad areas of learning - Oral Communication, Reading, Writing, and Media Literacy. And I think it is important that “strand”.

Key words: reading curriculum, structure of curriculum, Ontario, Canada

キーワード: Reading Curriculum, カリキュラム構造, カナダ・オンタリオ州

## 1. はじめに

いわゆる PISA ショック以降、日本はゆとり路線からの急転回をとげた。そして、その方向性は、PISA での高い評価を得ることを望んでいるように見える。例えば、以下に示す PISA2009 の結果についての文部科学省のコメントには、そのような姿勢が見え隠れする。

### 【PISA2009の結果】

○読解力を中心に我が国の生徒の学力は改善傾向にある。

- ・各リテラシーとも、2006年調査と比べて、レベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加している。しかしながら、トップレベルの国々と比べると下位層が多い。

○読解力については、必要な情報を見つけ出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手である。

○「趣味で読書をすることはない」生徒の割合は、2000年調査から減少(44.2% ←55.0%)したものの、諸外国(OECD平均37.4%)と比べると依然として多い。(傍線は引用者による)

傍線部に象徴的に示されているように、ここで述べられている「改善傾向」は PISA 調査における諸外国との比較をもとにして導かれたものであると考えられる。

いわゆる PISA 調査(読解)で、2000年から行われた4回の調査全てにおいて、日本よりも上位に位置している国には、フィンランド、韓国、カナダ、ニュー

ジランドがある。「改善」を目指す文部科学省の視線は、これらの国に注がれているものと推察される。

さて、文部科学省の分析のように、確かに改善の過程にあると言えるかもしれないが、読解力に関する分析結果を見る限り、本質的な問題はあまり変わっていないようにも思われる。

例えば、【PISA2009の結果】にあるように、「必要な情報を見つけ出しの取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結びつけたりすることがやや苦手である」という分析結果については、PISA2000当時から我が国の課題とされ続けてきたものである。取り組みの成果として、「読解力を中心に我が国の生徒の学力は改善傾向にある」とされ、方法的な改善が成果を上げている状況が窺えるが、内容的な側面の改善については、いまだ効果的であったかどうかわかりにくい。

平成20年版の新学習指導要領が全面実施された結果、PISA 調査の読解力の成績にどのような影響もたらされたのかは、次回以降の調査結果を待たなければならぬが、学習の目標と内容に関する側面の検討(カリキュラムの検討と改善)は、これまで同様に継続されなければならない。

PISA 調査における読解力について成績が上位の国のカリキュラムには、どのような側面があるのかを検討することも、その一つとして有益であることが十分に考えられる。CiNiiによれば、先行研究には、フィンランド、カナダ、韓国、それぞれの国のカリキュラムに関するものが散見される。フィンランドに関しては、理数教育に関わるものが多く、国語科教育に関わるものは少ない<sup>1)</sup>。カナダに関しては、メディアリテラシー教育に関わるものが非常に多く、研究領域も多岐にわたる<sup>2)</sup>。韓国に関しては、日本の教科教育との比較研究が多く、研究領域も多岐にわたる<sup>3)</sup>。

そこで、成績上位国のうち、PISA 調査が開始されてから、比較的、成績上位を維持し続けている、フィンランド、韓国、カナダに焦点をあて、カリキュラムにどのような特徴が見られるかを検討したいと考えるが、そのうち特に、メディアリテラシー教育に関する先行研究も多い、カナダのカリキュラムについて、本研究では特に取り上げる。ストレートに説明的文章教育に関する視点をもった先行研究が見られるわけではないが、メディアリテラシー教育が掲げる批判的な読みは、説明的文章教育にとっても重要な視点であり、示唆を得る可能性が高いと考えるからである。

ここまでに述べた問題意識から、本論文は、カナダ・オンタリオ州のReading Curriculumの構造について

検討を進める。この検討を通じて、説明的文章の読解カリキュラムを構築する際の一つの視点を得ることを目的とする。

## 2. カナダ・オンタリオ州のLanguage Curriculumの検討

### (1) 「The Ontario Curriculum , Grades 1-8, Language」構築における原理の検討

本研究における検討の対象とするのは、Languageのカリキュラムである「The Ontario Curriculum, Grades 1-8, Language」である。(以下、OC1-8Lと略記する。)

#### ① OC1-8L 構築の思想

「リテラシー、言語、言語に関するカリキュラムの重要性」ということから、オンタリオ州の言語に関するカリキュラムは始まる。冒頭には、ユネスコの宣言文が載せられている。

Literacy is about more than reading or writing – it is about how we communicate in society.

It is about social practices and relationships, about knowledge, language and culture. Those who use literacy take it for granted – but those who cannot use it are excluded from much

communication in today's world. Indeed, it is the excluded who can best appreciate the notion of "literacy as freedom".

UNESCO, Statement for the United Nations Literacy Decade, 2003-2012

リテラシーは読み書きを超えるものである – それは、私たちが社会においてどのようにコミュニケーションするかに関わるものである。それは、社会的な経験、結びつきに関するものである。また、知識、言語、文化に関するものである。そして、リテラシーを使う人々はそれを当然のことだと考える。しかし、リテラシーを使えない人々は、今日の世界において、多くのコミュニケーションから排除される状況に陥っている。皮肉なことに、排除されている人々こそ“リテラシーは自由を実現する”ということが本当の意味でわかるのである。

ユネスコ、国際連合におけるリテラシーの10年についての声明

冒頭に、この声明文を載せるという姿勢は、カナダの読解カリキュラムが国際社会を意識し、リテラシー教育を意図して、言語教育を構成していることを示し

ていると考えられる。特に、自らの生活する社会においてコミュニケーションを実現できる主体を育てていくことが重視されているようである。

リテラシーは「読み書き能力」と訳されることが多いが、「リテラシーは読み書きを超える」という意味を含み込んだ概念であると位置づけられていることが重要である。社会におけるコミュニケーションを実現する媒介として、そして、知識・言語・文化の享受を実現する媒介として、リテラシーの重要性を明確に示している点が重要である。

## ② OC1-8L の基礎となる原理

The language curriculum is based on the belief that literacy is critical to responsible and productive citizenship, and that all students can become literate. The curriculum is designed to provide students with the knowledge and skills that they need to achieve this goal. It aims to help students become successful language learners, who share the following characteristics.

言語カリキュラムは、次のような確信のもとに構築されている。

リテラシー（読み書き能力）はクリティカル（批判的）である。それは、信頼性が高く、創造的な市民性のためである。そして、すべての児童生徒はリテラシーを身につけることができる。このカリキュラムは、児童生徒がゴールに到達するために必要とする知識と技術を与えるようにデザインされている。さらに、児童生徒が、以下のような特性を共有する、優秀な言語学習者になるのを助けることを目指す。

「リテラシー（読み書き能力）は、信頼性が高く、創造的な市民性を実現するための根幹であると考えられているようである。

「critical」という概念は重要であるにもかかわらず、日本においては、必ずしも十分に理解されていないという状況にある<sup>4)</sup>。カナダ・オンタリオ州においては、Language Curriculum 構築の原理として市民性形成の概念が最重要な位置に据えられており、特徴的である。そして、そのような原理が明確に記述されていること自体、Language Curriculum の構造として重要であると考えられる。

このような概念を根幹に据え、さらに、具体的に Successful language learners（優秀な言語学習者）が設定されている。カリキュラムが実現しようとしている学習者像を示すことで、具体的な学習内容を導こう

としているようである。

続いて、「優秀な言語学習者」そのものについて、検討を進めていく。

Successful language learners:

- understand that language learning is a necessary, life-enhancing, reflective process;
- communicate - that is, read, listen, view, speak, write, and represent - effectively and with confidence;
- make meaningful connections between themselves, what they encounter in texts, and the world around them;
- think critically;
- understand that all texts advance a particular point of view that must be recognized, questioned, assessed, and evaluated;
- appreciate the cultural impact and aesthetic power of texts;
- use language to interact and connect with individuals and communities, for personal growth, and for active participation as world citizens.

優秀な言語学習者は、

- 言語学習は避けることのできないものであり、楽しいものであり、内省的な過程であることを理解している。
- 自信をもって、効果的にコミュニケーション（読む、聞く、見る、話す、書く、描写する）する。
- 彼らがテキストを見たり読んだりして出会ったことと、彼らを取り囲んでいる世界とを意味ある形でつなぐ。
- 批判的に考える
- 全てのテキストは、認識され、疑問を感じさせ、評価されなければならない、ある特定の見方を読み手に促すものだとすることを理解している。
- テキストの文化的な影響や美的な力を正しく認識する。
- 個人として成長し、世界市民として活動に参加することができるように、個人や共同体をつなぎ、協力し合うために言語を使う。

ここに示されている優秀な言語学習者の7つの姿は、Language の学習におけるものである。言語に関する行為を実現する上で、価値目標的な第1項目を真っ先に示し、授業づくりの構えを示している。このような学習者を育てるために、どのような授業を構成していけばよいかを考えていくことは重要である。

また、コミュニケーション、世界認識、批判的思考、

現代レトリックの成果を背景にした筆者概念の導入、市民性の育成などが「優秀な言語学習者」の姿を考える上で重視されたと思われる。読むという行為および読みの授業がどのような原理のもとに成立していくのかを考察するとともに、読みの授業がどのような人間を育てていくのかまで、射程に入れている点は特徴的である。

さて、ここまで述べてきたように OC1-8L は、その根幹に市民性形成概念を据え、Successful language learners (優秀な言語学習者) によって、具体化していく。カリキュラムがどのような人間を育てていくのかをまず明示し、そのための手立てを明らかにしようとしているようである。

This curriculum organizes the knowledge and skills that students need to become literate in four strands, or broad areas of learning - Oral Communication, Reading, Writing, and Media Literacy. These areas of learning are closely interrelated, and the knowledge and skills described in the four strands are interdependent and complementary. Teachers are expected to plan activities that blend expectations from the four strands in order to provide students with the kinds of experiences that promote meaningful learning and that help students recognize how literacy skills in the four areas reinforce and strengthen one another.

このカリキュラムは、4つの strand あるいは学習の幅広い領域（話し言葉によるコミュニケーション、読みの教育、作文の教育、メディア・リテラシー）を通して、読み書きができるようになるために学習者が必要とする知識と技能を組織する。学習におけるこれらの領域は密接な相互関係を持ち、4つの strand に示されている知識と技能は互いに依存しつつ、補足し合う。教師は、4つの strand から導かれるねらいを取り混ぜて、学習者にとって意味ある学習を構成する適切な経験を与えるような活動を、そして、学習者が4つの領域における読み書き技能を相互補完的に強化していく方法について、認識することを助けるような活動の計画が期待される。

話し言葉によるコミュニケーション、読みの教育、作文の教育、メディア・リテラシーという4領域が密接な相互関係をもつように、strand は用意されるようである。また、4つの strand に示されている知識と技能は互いに依存しつつ、補足し合うように、設計されるようである。

4つの strand どうしが深い関係をもちつつ言語活動が進められていく、という本来的な姿を学習の設計にも生かしていこうとしているところが特徴的である。知識と技能によって記述された strand を根本に含みこんだ形で教師によって言語活動が組織されることで、系統性を保障していくことが可能であると考えられる。そして、それぞれの言語活動が、どのような知識と技能とを育てていくものなのかを明示的に示すことによって、言語活動自体が目的化してしまうことを避けることもできるであろう。

### ③ OC1-8L 構築における原理に関する検討のまとめ

ここまでのところでは、OC1-8L がその構築の思想として、リテラシーの重要性を述べていることが明らかとなった。社会におけるコミュニケーションを実現し、文化の継承を実現するといった点で、単なる読み書きを超えるものとしていることは、普遍的(不変的)なりテラシーの見方を明示している点で意義深い。時代や社会状況を超えて、リテラシー概念の抛り所を確かめ続けようとする思想の顕れでもあろう。

さらに、リテラシーは市民性形成に critical (不可欠) であるという立場を明示することで、OC1-8L も critical 概念をその根幹に内在したのものとして構築されていることを明らかにしている点が特徴的である。社会におけるコミュニケーションや文化の継承が、critical という本質をもったリテラシーによって行われていくということが前提となっている。

日本では、critical 概念が十分に市民権を持ったものとはなっていない。本来、「critical」とは、「慎重に吟味し判断する」といった意味合いで使われているものである。日本において、critical の訳語として当てられている「批判的」ということばは、「ケチをつける」とか「問題をあげつらう」といった意味で一般的に通用していることが多い。しかし、「慎重に吟味し判断する」ためのリテラシーは、日本社会においても重要視されている。言語を媒介として「慎重に吟味し判断する」認識主体、さらに言えば、表現主体をも日本社会も求めているのである。OC1-8L の場合、critical 概念をその根幹に内在したのものとして構築されていることを明らかにしているが、学習指導要領にもそのような立場が求められているのではないだろうか。

さらに、OC1-8L は、言語を媒介として「慎重に吟味し判断する」主体の姿を「優秀な言語学習者」として、具体的に示している。現実の授業場面では、このような具体的な目標像が有効であることが多い。「優秀な言語学習者」という具体的な目標像を位置づけているこ

とも、OC1-8Lの構造として重要であると考えられる。

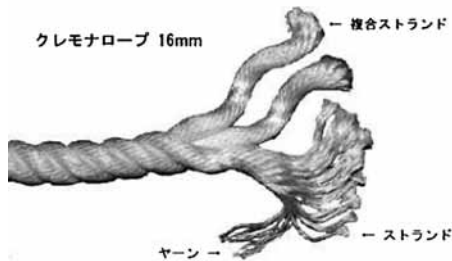
そして、strandの存在が重要である。strandどうしの密接な相互関係を示すことで、言語活動のありようも規定し、さらに、言語活動の系統性が保障され、言語活動が目的化してしまう危険性を回避することができると思われる。

次章においては、OC1-8Lにおけるstrandの有り様を概観し、strandがOC1-8Lの構造上の特徴を生み出していることを述べたい。

## (2) 「The Ontario Curriculum, Grades 1-8, Language」におけるstrandの有り様

### ① strandとは

図は、野田製綱というロープを作っている会社のホームページで紹介されていたものである。strandとは、もともと「撚り糸」という意味を持ち、ロープを構成する要素である。



野田製綱ホームページには、「ストランド」の説明もある。合わせて紹介したい<sup>5)</sup>。

- 繊維を並べてそろえたものに、撚（よ）りをかけたもの・・・ ヤーン
- ヤーンを数本から数十本集めて、ヤーンと反対の撚りをかけたもの・・・ ストランド
- ストランドを三本合わせて、ストランドと逆の撚りをかけたもの・・・ ロープ (単合打)
- ストランドを数本合わせて複合ストランドとし、これを三本撚り合わせてつくったもの (16mm以上の太いロープ)・・・ ロープ (複合打)

OC1-8Lは、ここでいうロープにあたり、その構成要素として、strandがあるわけである。ヤーンと呼ばれる「繊維を並べてそろえたものに、撚りをかけたもの」を数本から数十本集めて、ヤーンと反対の撚りをかけたものがストランド (strand) である。前項で指摘したstrandどうしの密接な相互関係はロープの

場合の「撚り」であり、接着剤などを用いなくとも密着し、strandどうしの力学的なバランスによって、強固に関係づけられ、一体化した構造を作り上げている。

森田信義の報告によれば、strandは『国語の経験カリキュラム』(Hatfield, W.W. ed., *An Experience Curriculum in English*, NCTE, 1935)に取り上げられた概念である。「範囲と難度を次第に増す、一連の同類の型の経験」が「strand」とされる。経験カリキュラムでありながら、「範囲と難度を次第に増す」という縦と横の関係が保障されていたことで、「はいまわる経験主義」に陥らなかったと森田は述べている<sup>6)</sup>。

OC1-8Lは、その中でも明示されているように、知識と技能を中心としたカリキュラムであり、『国語の経験カリキュラム』のような経験カリキュラムではない。しかし、strand概念を取り入れ、『国語の経験カリキュラム』に採用されたものと同様の構造をもっていられるとえられる。

### ② OC1-8Lにおけるstrandの実際

The expectations in the language curriculum are organized into four strands: Oral Communication, Reading, Writing, and Media Literacy. The program in all grades is designed to develop a range of essential skills in these four interrelated areas, built on a solid foundation of knowledge of the conventions of standard English and incorporating the use of analytical, critical, and metacognitive thinking skills. Students learn best when they are encouraged to consciously monitor their thinking as they learn, and each strand includes expectations that call for such reflection.

The knowledge and skills described in the expectations in the four strands of the language curriculum will enable students to understand, respond to, create, and appreciate a full range of literary, informational, and media texts.

言語カリキュラムにおけるねらいは、4つの「strand」によって組織されている。それは、話し言葉によるコミュニケーション、読みの教育、作文の教育、メディア・リテラシーである。すべての学年における学習内容は、クイーンズ・イングリッシュの伝統的な知識をもとにして、分析的で、批判的で、メタ認知的な思考法を合体させた強固な基礎の上に立てられ、4つの相互関連した領域における、本質的な技能群の範囲を發展させるようにデザインされている。児童生徒は、彼ら自身が学んでいると

きの自身の思考を、自覚的にモニターするように促されたとき、最高の状態で学ぶ。そして、それぞれの「strand」は、そのような内省を必要とするねらいを含んでいる。

言語カリキュラムの4つの「strand」のねらいが描き出す知識や技能は、児童生徒が理解し、反応し、創造し、全ての範囲のリテラシー、説明的文章、メディア・テキストを正しく認識できるようにさせる。

OCI-8Lの4つのstrandは、つぎのものであると述べられている。

- 1) 話し言葉によるコミュニケーション  
(Oral Communication)
- 2) 読みの教育 (Reading)
- 3) 作文の教育 (Writing)
- 4) メディア・リテラシー (Media Literacy)

こうしてみると、言語の機能による領域がstrandの実体であるようである。そして、「メディアリテラシー」が言語教育に位置づけられていることが特徴的である。

また、「児童生徒は、彼ら自身が学んでいるときの自身の思考を、自覚的にモニターするように促されたとき、最高の状態で学ぶ。そして、それぞれの『strand』は、そのような内省を必要とするねらいを含んでいる。」とあり、学習者が自覚的に学ぶこともねらいとして位置づけられていると示されていることも特徴的であると考えられる。

さらに、「言語カリキュラムの4つの『strand』のねらいが描き出す知識や技能は、児童生徒が理解し、反応し、創造し、全ての範囲のリテラシー、説明的文章、メディア・テキストを正しく認識できるようにさせる。」と述べており、OCI-8Lの4つのstrandは、言語活動をとらえて言語に関する知識と技能を身につけさせることで、さまざまな対象について理解、反応、創造、認識をすることができるようになることをねらって構成されていることがわかる。

④ 4つのstrandに内在する一貫したねらい

それぞれのstrandには、第1学年（小学1年）から第8学年（中学2年）までを貫く一貫したねらいが設定されている。

The Oral Communication strand has three overall expectations, as follows:

**Students will:**

1. listen in order to understand and respond appropriately in a variety of situations for a variety of purposes;
2. use speaking skills and strategies appropriately to communicate with different audiences for a variety of purposes;
3. reflect on and identify their strengths as listeners and speakers, areas for improvement, and the strategies they found most helpful in oral communication situations.

The Reading strand has four overall expectations, as follows:

**Students will:**

1. read and demonstrate an understanding of a variety of literary, graphic, and informational texts, using a range of strategies to construct meaning;
2. recognize a variety of text forms, text features, and stylistic elements and demonstrate understanding of how they help communicate meaning;
3. use knowledge of words and cueing systems to read fluently;
4. reflect on and identify their strengths as readers, areas for improvement, and the strategies they found most helpful before, during, and after reading.

The Writing strand has four overall expectations, as follows:

**Students will:**

1. generate, gather, and organize ideas and information to write for an intended purpose and audience;
2. draft and revise their writing, using a variety of informational, literary, and graphic forms and stylistic elements appropriate for the purpose and audience;
3. use editing, proofreading, and publishing skills and strategies, and knowledge of language conventions, to correct errors, refine expression, and present their work effectively;
4. reflect on and identify their strengths as writers, areas for improvement, and the strategies they found most helpful at different stages in the

writing process.

The Media Literacy strand has four overall expectations, as follows:

**Students will:**

1. demonstrate an understanding of a variety of media texts;
2. identify some media forms and explain how the conventions and techniques associated with them are used to create meaning;
3. create a variety of media texts for different purposes and audiences, using appropriate forms, conventions, and techniques;
4. reflect on and identify their strengths, areas for improvement, and the strategies they found most helpful in understanding and creating media texts.

それぞれの strand には、第1学年（小学1年）から第8学年（中学2年）までを貫く一貫したねらいが設定されていることは、学習指導要領と比べて特徴的である。strand という概念を忠実に具体化した結果であろうと考えられる。

### ⑤ Reading strand のねらいに内在する構造

特に、Reading strand のねらいについて取り上げ、和訳し、検討してみる。

1. 意味を構成するために幅広い方略を使い、文学、写真、説明的文章の種類について、読んだり、根拠をもって解釈したりする。
2. テキストの種類、テキストの特徴、文体上の要素を認識し、意味を分かち合えるように根拠をもって解釈する。
3. 言語の知識や流暢に読むための発声法を使う。
4. 読み手としての力、上達のための範囲、そして読解前・読解中・読解後にもっとも有効な読み書き能力を明らかにし、反映する。

これらの4つの一貫したねらいをもって、第1学年から第8学年まで、読みの教育は進められていく。

1は、意味を構成するための読みの方略を身につけさせることをねらっている。

2は、テキストの種類、テキストの特徴、文体上の要素を理解させることをねらっている。

3は、流暢に音読できるようにさせることをねらっている。

4は、読みの技能や方略について自覚させることをねらっている。

このような構造にすることのメリットはつぎのようなことであろう。意味を構成すること、テキストの種類・テキストの特徴・文体上の要素に関する理解、流暢な音読、自覚的な読みの技能や方略の活用について、第1学年には第1学年にあったように、第8学年には第8学年にあったように、範囲と質を設定することで、少しずつ難度を高めながら、同種の能力に関して繰り返し学ばせることができるということであろうと考える。このようなスパイラル構造は、学習指導要領には見られない。同種の能力について、少しずつ難度を高めながら繰り返し学ばせることで、スモールステップの学習を実現することができる。

さらに重要なことは、どの単元においても、文章を「読む」という行為を完結させながら進むことができるという点である。単に順序をとらえる能力を高める学習を進めるだけでは、文章の意味を構成することができなかつたり、文体上の要素を理解することができなかつたりするのではないか。それぞれの単元で、学習の対象となる文章について、それぞれの学年の実体に合わせた形で「読む」という行為を完結させていかなければ、「読む」という経験を積まずに進むことになるだろう。そして、それは、OC1-8L に提案されている、読みの能力や方略に関する児童のメタ認知の能力を伸ばしていくことが、日本では難しいという重大な問題を引き起こすことにならないか。

## 3. まとめ

本研究の冒頭で取り上げた、【PISA2009の結果】の最後にあった

○「趣味で読書をすることはない」生徒の割合は、2000年調査から減少（44.2% ←55.0%）したものの、諸外国（OECD平均37.4%）と比べると依然として多い。

という課題状況が、10年におよぶ取り組みを通してもなかなか改善していかない理由の一端は、学習指導要領の構造にあるのではないかと考える。

それぞれの単元において、読むという行為を完結させるためには、もっとそれにあつたカリキュラムの構造があるのではないかと考える。

このような問題状況を抱えたカリキュラムを忠実に具体化するための努力と工夫は、今も重ね続けられている。そして、実践研究家は、学習指導要領をミニマムエッセンシャルズと見て、目の前の子どもたちが、いかに生き生きとした読みの中で力をつけることができるかを真摯に考え続けている。

読むという行為を、それぞれの年齢に応じた易しい形で完結させながら繰り返させ、楽しませながら「読む」という行為に熟達させていくという発想が、今、求められていると考える。そして、そのための、読みの教育のためのカリキュラムの解体と再構築が求められていると考える。

## 【注】

- 1) 「国語科のカリキュラム開発の課題は何かー日本・フィンランドの説明的文章教育の比較考察」(瀧田和也, 『言文』(55) 29-43, 2007, 福島大学国語教育文化学会)
- 2) 例えば, 「カナダ・オンタリオ州の1999・2000年版および2007年版英語カリキュラムにおける人権の位置づけの異同ーメディアリテラシー教育に着目してー」(森本洋介, 『カリキュラム研究』第19号, 2010年3月, 99-111頁), 「母語教育カリキュラムにおけるメディア・リテラシーの位置ー日本, イギリス, カナダ・オンタリオ州, 西オーストラリア州のカリキュラム比較分析ー」(中村純子, 『全国大学国語教育学会発表要旨集』117, 117-120, 2009-10-17) など多数
- 3) 例えば, 「韓日両国における科学教育カリキュラ

ム及び教科書記載内容の比較研究: 主に生命科学分野の取り扱いについて」(柳孝郎, 松澤哲郎, 大阪教育大学紀要V, 教科教育54(1), 123-140, 2005-09-30), 「グローバル教育としての小学校社会科カリキュラムと授業モデルの開発: 韓国小学校社会科カリキュラムを中心に」(田 鎬潤, 中村 哲『兵庫教育大学教科教育学会紀要』(14), 19-28, 2001-03) など

- 4) 「批判的に読み, 自分の主張へとつなげる国語学習」市川伸一 (『文章理解の心理学 認知, 発達, 教育の広がりの中で』(大村彰道監修, 秋田喜代美, 久野雅樹編集, p.244~255)
- 5) <http://www.f4.dion.ne.jp/~noda.sk/index.htm>  
野田製綱株式会社ホームページ
- 6) 「1 アメリカ合衆国におけるカリキュラムーその1ー」(森田信義, 『教科等の構成と開発に関する調査研究 研究成果報告書(9) 国語系教科のカリキュラムの改善に関する研究ー歴史の変遷・諸外国の動向』, p.99) ただし, 森田の報告では, Experience Strandsを「経験の糸」と訳している。本研究で取り上げている Strandについては, Experience Strandsの構造と同様な構造をもった概念であると論者は考えている。

(主任指導教員 難波博孝)